

# NOVA VOJO

JANUARO



OFICIALA REVUO DE ESPERANTO-POPULARIGA ASOCIO  
N-ro 480 JANUARO 2012



# ☆ エスペラント普及会へようこそ! ☆☆☆

国際共通語・エスペラントは、「ことばの架け橋」ともいわれています。

それぞれの母語（民族語）を大切にしながら、異なる言語を話す人々とエスペラントを通して交流を深めることによって、“地球人”としての意識も高まってきます。

あなたもエスペラントを学んで、世界の人々と心の架け橋を築いてみませんか！

今日、インターネットなどの普及によって、海外の人々と瞬時のうちに情報を伝え合うことが容易になり、世界が身近に感じられるようになりました。

まさに、一人ひとりが世界と密接につながっていく、新時代の到来といえるでしょう。そこで、わたしたちはどの国の人々にとっても、中立・公平で学びやすい地球人の共通の言葉“エスペラント”の学習をおすすめします。

エスペラント普及会 (*Esperanto-Populariga Asocio* =略してEPA: エーポーアー) では会員の募集を行っています。

会員になられますと、研修会などを安く受講できる特典があります。また、機関誌“Nova Vojo”が毎月送付されます。さらに、貴方の街での講習会に、多彩な EPA 講師陣よりご要望に応じた講師を派遣いたします。

今すぐ、ご入会の手続きを！



## 年会費

普通会員	3,000 円
学生会員	1,500 円
家族会員	1,000 円
普通賛助会員	1,000 円以上
特別賛助会員	10,000 円以上
終身賛助会員一時金	10 万円以上
購読者	3,600 円



## Esperanto Populariga Asocio

〒 621-8686 京都府亀岡市天恩郷 (Ten'on-kyo, Kameoka-si, Kyoto-hu, 621-8686, Japanio)

TEL: 0771-56-9073 FAX: 0771-25-0061 E-mail: officejo@epa.jp

郵便振替: 01010-0-8669 (Postgirkonto: 01010-0-8669)

# NOVA VOJO

表紙題字：出口 紅  
Kovrila epigrafo: DEGUČI Kurenai



1 januaro

(目次)

## ENHAVO

- 巻頭言
- 大本の教えと、エスペラントの平和の思想を持って 田中雅道 2
  - 生きがいの探求 (1) 4
  - 第62回EPA理事会、代議員・支部長会議を開催 8
  - 支部・代議員活動報告 10
  - ザメンホフ祭2011を開催 14
  - EPA京都支部で第4回一泊研修会 15
  - EPA事務局だより 32

表紙絵  
(kovrila bildo)



出口 瑞 (DEGUČI Micugi)  
“サンバ 1”  
sambo (1)

## SERIAJ

- 定期連載 -

- ☆ 私の体験的エス語学習法論 田淵八州雄 17
- ☆ 新入門講座 奥脇 俊臣 20
- ☆ お菓子レシピ 22
- ☆ 中級クラス 砦 大福 24
- ☆ ことわざで学ぶエス語 田中 雅道 27
- ☆ 通信添削問題・模範解答 砦 大福 28
- ☆ De loko al loko 吾郷 孝志 31



— 巻頭言 —

## 大本の教えと、エスペラントの平和の思想を持って

田中 雅道 TANAKA Masamiichi

エスペラント普及会理事長

新年明けましておめでとうございます。

いよいよ開教百二十年を迎えました。

亀岡天恩郷にお越しいただきますと、目の前に壮麗な大道場講堂が見事な姿を現わしています。その前の広場ではエスペラント碑がひときわ目を引きまします。みろく会館、大本会館、大道場講堂と、聖地の施設が開教百二十年の佳節を寿ぎ次々と整えられて参りました。

新年を迎えて思うことは、一体この先世の中はどうなっていくのだろうか？ということです。

今年を大きな節目と捉えているのは大本だけではありません。

マヤのカレンダーによると、

この年 2012 年は一つの周期が終り、次の周期に移る節目だと伝えられています。他にも今年がどういう年なのか、いろいろな説があるようです。

未来には、みろくの世という輝かしい時代が到来するとお示しいただいていますが、そこに到達するまでに、果たして人類はどんな時代を超えていかなければならないのでしょうか？

神さまが明治 25 年からお示しになっていることは、人類への厳しい戒めです。昨年も大震災、津波や台風など自然の脅威を思い知らされ、厳しい時代がいよいよ間近に迫っていることを実感し、襟を正す思いがあります。

開教百二十年を迎え、私たちは、名誉会長が常々お示し下さっていますように、心を鎮めて歩



んで行きたいと存じます。素直な気持ちで、それぞれが与えられている環境や立場において各自の務めを、神さまのみ心に沿って、まことを尽くすべく共に努めて参りたいと思います。

初日の出を拝むため富士山頂に登るのに、河口湖から、富士宮から、御殿場からと、いろいろな登山道があります。

同じように世界平和、みろくの世に向かうにもいろいろな道があります。

エスペラント碑に刻まれている Unu Dio 宗際活動、Unu Mondo 世界連邦、そして Unu Interlingvo エスペラントという道です。

それぞれの登山口に到達しても、そこから更に奮起して、額に汗して険しい道を歩んで行かなければ山頂には行き着けません。登り口にたどり着いたことで安心してしまっ、そのまま登山口に座り込んでしまったの

では、目的地に到達することはできません。さらにそこから険峻な道を登らなければなりません。神さまがお示しくださっている方向に向かって、少々苦しいことがあっても、私たちはたゆまず歩みを続けましょう。そのキーワードはみたま磨きです。直日のみたまに省みることです。どの道をたどるにしても、自分を育て心を高めなければ、ほんとうに価値のある歩みとはなり得ません。

エスペラントは、国の違いを越えて人の心を結び、同じ志を持つ団体を結び、世界中に善意のネットワークを築く言葉です。

大本のみ教えをいただき、エスペラントの平和の思想を胸に抱く私たちは、来たるべき時代に向かって共に最善を尽くして歩んで行きたいと思ひます。



## Esplorado de Vivĝojo (1) 生きがいの探求(1)

DEGUĈI Hidemaru

出口日出麿著

*El japana tradukis ITOO Eizo*

伊藤栄蔵訳

### 《Antaŭparolo》

Ĉiutage mi pripensadas pri la mondo, pri la homo, laŭ diversaj flankoj.

Precipe pri mi mem mi pripensas je ĉiu kazo, sed tamen mi ne komprenas. Je ĉiu ago de aliaj personoj mi pripensas nete objektivite; pri la ŝanĝoj de la mondo mi profunde pensas unu post alia, sed nenion mi povas kompreni.

Mi nur komprenis, ke en la mondo povas ekzisti aĵoj de minimumo ĝis maksimumo tiel horizontale, kiel ankaŭ vertikale.

Mi nun vivas naskita ĉi tie en la mondo kaj tio signifas, ke mi certe portas ian mision. Mia vivcelo eble ne devas esti nur akiri gloran honoron nek gajni agnoskon de merito mondecane.

Se mi vivos kvindek aŭ sesdek jarojn en ĉi tiu mondo,

### 《はじめに》

いろいろ、毎日考えている。この世の中を、人というものを、いろいろと考えてみる。

とくに自分というものを、批判的に反省的に、ことごとく考えてみる。なかなかわからない。他人の一挙一動を、いろいろと、純客観的に考えてみる。世事のうつりかわりというものを、つぎつぎと考えてみる。別に、なんにもわからない。

ただ、無限小から無限大までが、この世の中には、平面的にも立体的にも存在しているものだ、ということがわかったばかりである。

自分は、いま、こうやって、この世に生まれさせられてきている以上は、ここに、何かの使命は持っているにちがいない。けっして、世間的なはなばなし、名誉や功名を得んがためのみではなからう。

とにかく、自分というものが、五十年なり六十年なり、

mi devas postlasi ion, kiel memorajon de vivo. Estas bone, eĉ se mia laboro restos tute ne taksata. Se mi ne povos ion ellabori, almenaŭ mi devas postlasi signojn de mia penado por ellabori.

Mi notos ĉiufoje, kiel mi suferis aŭ kiel mi komprenis, por ke espereble tiu noto iel helpu al la postvenontoj.

Lastatempe mi forte konvikiĝis, ke tio ne estas vana. Kompreneble en la estonteco multaj miaj spertoj montriĝos ridindaj. Mi miros, kial mi suferis pro tia bagatelaĵo. Sufiĉe, se mi povos mem vidi la progreson de mia penso kaj se ankaŭ por aliaj iel utilos miaj spertoj eĉ se naivaj.

Ĉiuokaze la noto pri mia vivado kiel homo, mi ne scias ĉu ĝi estas bonkvalita aŭ ne, donu iajn sugestojn.

この世に在ったという記念には、何かを後世に残さねばならぬと思う。椽の下の力もちで結構だ。たとえ、何事もなしえないでも、なそうとして努力した跡だけでも、残さねばならぬ。

自分はこう考えた、こう苦しんだ、こう悟った、ということ、そのときどきに記しておいて、自分の後からくる人々の参考に使いたいと思う。

このごろ、特に、それがむだでないと思うこと切である。むしろ、あとになって考えてみれば、「あのころは、なんとつまらないことに苦しんだんだろう」というようなことが、たくさんあるに違いないとは思っているのだが、しかし、要するに、自分というものの考え方の、進歩のしかたをみるのも自分にとってはよいことだし、他の人にとっては、いろいろと思いきらべて、参考になることもあろうと思う。

とにかく、自分が人間であった日の記録なのだから、その正邪良否は別問題として、何かの参考になることであらうと思う。

◆ La I-a Parto

1. Deziro esti feliĉa

Amo kaj saĝo

Estas vera feliĉo, kiam homoj reciproke sin amas, simpatias kaj dankas.

La homo deziras unu alian personon, kiun li aŭ ŝi vere fidas. Estas kompatinde, se tia ne troveblas.

Unu diras, ke nenio estas pli kontentiga ol labori por la persono, kiun oni amas, aŭ de kiu oni deziras esti amata.

Alia konfesas: “Estas ne tolereble mizere ne havi personon, kiu ĝojas mian sukceson nek personon, kiun mi deziras ĝojigi. Bonvolu kompati min, kiu trenas tian palan vivon.”

Mi povas vere simpatii ilin.

Se iu havas volon doni ion al alia, kaj tamen se alia ne

◆ 第一部

1. 幸福を求める心

愛と知と

人生はお互いに思い思われ、なつかしく、ありがたく感じ合うところに本当の幸福がある。

とにかく、人間は真にあいゆるした一人を欲しているものだ。その一人がないということは寂しいことに違いない。

ある人はいう。

「自己が愛している者のため、あるいは、愛されたいと思う者のために働くことほど満足はない」と。

そうであろう。またいう、「心から、自己の成功をよろこんでくれる者を持たず、また、喜ばしいと思う者を持たないことほど、寂しく、たよりないことはない。こうした張り合いのない、気のぬけたような生活を送っている自分を了解して下さい」と。

私は、よく、その人の心持ちがわかる。

与えようとする心はあっても、受けようとする他の心が



havas volon ĝin ricevi, ne kompletigas la rilato.

Se A sopiras B, kaj tamen se B ne ŝatas A, ne efektiviĝas kompleta amo.

La mondo estas tenata per ekvilibro de kontraŭoj, reciproke sin al si direktantaj. La mondo fariĝas des pli feliĉa, ju pli komplete plenumas sian taskon la kontraŭoj.

Estas necese, ke la reĝo kaj la vasalaro ambaŭ estu bonaj.

La homo estas tre kaprica estaĵo. Kiam li malsanas, li forte sopiras la sanon, abomenante la malsanon, kaj decidas en la koro ke li volonte laboros por la ia ajn tasko se resaniĝos. Kiam li resaniĝas, li tute forgesas la kordecidon kaj ĉiam plendas, grumblas.

Ne estas pli granda feliĉo, ol labori en bona sano.

(daŭrigota)

なかつたら、ここに授受の関係はおこらない。

甲は乙を想っても、乙が甲を想わなかつたら、ここに完全な愛の実はむすばない。

対象によって保たれている天地である。その対象が、ますます完全に、その役目を果たすことにおいてのみ、この世はますます、より幸福になってくるのだ。

殿さまも家来も、ともに立派であることを必要とするのである。

人間というものは実に勝手なもので、病気のときは「病気くらい悪いものはない、病気さえなおったらどんな仕事でも不平をいわずに働こう。達者になったら、これに越したことはない」と決心しながら、いざ達者になると、もう前のことはすっかり忘れてしまって、何かにつけて不平不満ばかりいつているのである。

われわれは壮健であり、仕事をしていることほど、この世に幸福はないのである。

(つづく)

EPA普及会は、2011年12月4日(日)午後2時から5時まで、亀岡市天恩郷大本本部内の大本会館3階第4・5会議室で、第62回理事会・代議員・支部長会議を開催した。

出席者はつぎの各氏、稲垣裕彦、田中雅道、木村且哉、平井淳、谷垣孝幸、加賀美明男、谷口岩雄、坂本弓代、吉村真澄、山本明子、奥脇俊臣。ほかに委任状13人。

田中理事長が「2012年に大本は開教120年を迎える。すでに大道場講堂が完成し、国内外から来苑される方々を迎える施設が完備してきた。私たちも活動をしっかり進めてゆきたい。」と開会のあいさつを述べた。

出席者数が定数を満たし会議が成立したことが確認され、協議に入った。

(1) 2012年度活動予定について、田中理事長が資料に基づいて説明し、つぎの事項が承認された。

①機関誌NOVA VOJOを11回発行しエスペラント学習を促進する。②越年合宿(亀岡市天恩郷大本本部)、国際エスペラント合宿(3月31日から4月1日に大本熊本本苑)、EPA関東エスペラント合宿(5月26日から27日、大本東京本部)を開催する。③亀岡市天恩郷と綾部市梅松苑で定期講習会、地方での定期また不定期の講習会を開催す

る。④7月28日から8月4日まで開催の第97回世界エスペラント大会(ベトナム・ハノイ)にEPA参加団を組織する。⑤8月12日から15日まで(青年エスペランチスト大会の後)綾部市梅松苑大本本部で「Bonvenon al Oomoto, 2012」(青年エスペランチスト向けの行事)を開催する。⑥10月6日から8日まで開催の第99回日本エスペラント大会(北海道・札幌市)にEPAから代表者が参加する。⑦(この事項は後にメールで審議され承認された)1月8日から12日まで韓国イクサン市で開催される「圓仏教瞑想セミナー」に1名を派遣する。

(2) 2012年度年度予算案について、田中理事長が資料に基づき説明し、承認された。なお、予算案についての質疑は、①雑収入の内容は、E普及会から地方講習会への講師出向の御礼などである。②EPK(エスペラント懇談会)費用は海外のエスペランチスト来苑のときの歓迎会の開催などにあてる。

#### ◆活動報告

EPAの活動などについて、つぎの事項が報告された

(1) 越年エスペラント研修会について、資料に基づき田中理事長が報告。みろく会館のホールを使用。子供クラスは小学4年生以上を対象。

(2) 2011年10月7日から11日

まで韓国ソムナム市で開催された日本・韓国合同エスペラント大会に裕大福、奥脇俊臣の両氏が参加し大本分科会などを開催したことについて、奥脇事務局長が報告した。

(3)2011年7月23日から30日まで開催された第96回世界エスペラント大会(デンマーク・コペンハーゲン)に田中雅道、奥脇俊臣の両氏が参加し、大本分科会を開催したことなどについて、田中理事長が報告した。

(4)大本紹介のDVD(冊子付)『日本の春、2009年、大本』の発行(ローマン・ドブジンスキー製作・著)について、田中理事長が説明。

DVD(38分)はローマン氏が、2009年末から翌年5月までの滞在中に亀岡市天恩郷と近畿の大本地方機関やエス会合の活動を撮影し、2011年の世界エスペラント大会の文芸コンクール(フィルム部門)で1位に入賞したものの。これに大本の紹介をする冊子(約150頁)付で『日本の春 2009年 大本』として国際部費で500部を製作する。

(5)ヨー・ハーゼン氏(ブルガリア白色連盟のメンバーで、ベイヤード・カリヨンの奏者)から、大学におけるお茶の講座開講について提案があった。詳細について現在問い合わせ中であると、田中理事長が報告した。

(6)2011年6月30日ポーランド共和国大統領勲章が、同国マルボルク市で三好鋭郎氏に授

与された。授賞は、同氏が2002年からエスペラント普及のためEU13カ国で23回の新聞広告を行ったことに対するもの。

この後、支部活動報告が行われた。(本誌の支部活動報告の頁を参照)

#### ◆出席者の意見など

意見交換の時間では、平井淳理事から2013年のEPA創立90周年を記念して『大本神業とエスペラント』の冊子の再版をしてほしい。

加賀美明男代議員は、日本の茶道をエスペラントで教えるなどができるエスペラント特派員が必要だと思う。

稲垣裕彦監事は、エスペラント碑が新しい場所に建ち、エスペラントのご神業がまた強く始まるのではないかと。今後もエスペラント歌祭がやはり大事だと思っている。

木村且哉常務理事は、EPAのホームページを10月に全く新しくした。地方活動を掲載したいので記事を送ってほしい。

谷垣孝幸(なにはエスペラント塾)は、大本ビデオニュースにエスペラントの簡単な会話を出して欲しい。

田中雅道理事長は、2013年の日本大会は第100回の記念大会で、JEIが主催して東京で開催する。同年のEPAの90周年記念行事は、6月あるいは11月に行いたい。

## ★福岡アミーカ支部

●松本 朗

◇第21回国際エスペラント合宿参加：4月2日(土)・3日(日)  
[参加団は2日～4日]

韓国 清道(チョンド)郡のピスルリゾートと南岡(ナムガン)書院を会場に開催され、日本からの参加者は福岡港出発組6名、関西空港出発組5名で合計11名であった。韓国、ドイツ、オランダからも参加があり同合宿の参加者は合計65名。日本からの参加者は合宿終了後、釜山のエスペランチストと交流した。

◇第85回九州エスペラント大会の運営に参加  
5月28日(土)・29日(日)

福津市サンピア福岡で開催された九州エスペラント大会の企画執行全般にわたり協力した。

◇日韓合同エスペラント大会参加：10月7日(金)～9日(日)

韓国城南市セマウル運動中央研修院で開催された同大会に福岡地区から4名が参加し、次の分科会に出席した。韓国鍼灸、圓佛教、大本、人類愛善会モンゴルセンター。

◇海外エスペランチストの来訪者

9月24日に韓国の画家ホ＝

ソン氏が来訪し、太宰府市で歓迎会を行った。

10月13日にはポーランドのGeorgo Kilijanski氏が来訪し太宰府市で歓迎会を行った。

## ★豊穰支部

●吉村 真澄

月次祭の司会を日本語とエス語で行っている。日本語の司会者との呼吸が難しいが、力量範囲でエス語の響きを参拝者の皆様にお伝え出来る環境を与えていただいたことを深く感謝している。

## ★新潟エスペラント会

●廣井 直子

新潟エスペラント会は受講者10名で三条市と新潟市の二カ所で行う月1回、または2カ月に1回、裕大福講師を迎え勉強会を行っている。

三条市は片桐千百合さん宅で、午後1時～午後4時に2名、午後7時～9時に3名、合計5名が受講。

新潟はクロスバル新潟(公民館)で午前10時～午後2時半に5名が受講。

月2回のうち2カ月に1回は俗講師が、1回は自主勉強をしている。教則本はエスペラント語入門にそって分かりやすく楽しく勉強している。



## ★なにはエスペラント塾

### ●谷垣 孝幸

今年も月2回の初級（入門）・中級（2クラス）を継続して行った。エス語熱は活気を呈した。

・初級（入門）講座…奥脇俊臣講師の指導で16～17名が受講。テキストは『Lernokajero de Esperanto』（kvina grado）。次回は『Intensiva Kurso de Esperanto』の予定。

・中級講座（その1）…田中雅道講師の指導で常時7～8名が受講。前期は「作文」を、現在は『Barbro kaj Eriko』の legado を中心に読解力の修得に励んでいる。

・中級講座（その2）…裕大福講師指導で常時7～8名が受講。現在『La paroladoj de L・L・Zamenhof』初期演説集を legado。Zamenhof の精神を修得している。

今後とも実践力の習得に努力していきたい。

## ★京都支部

### ●松本 泰昭

第二日曜日の月次祭後の16時30分～18時と、第四金曜日の14時～16時の月2回、京都本苑信徒の平野清享氏を講師とし初級者向けエスペラント勉強会を開催。教材は『エスペラント四週間』。参加者は毎回5、6名。年間を通して24名が参加。

11月26日（土）～27日（日）に京都本苑でエスペラント一泊研修会を5年ぶりに開催。

本部より田中雅道理事長を招き初級者コースを指導頂いた。中級者コースは平野清享講師に指導頂いた。受講者は初級者コース11名。中級者コース5名。

来年も同様の活動を展開したい。また、京都本苑のエスペラントホームページを開設する予定。

中級者コースの常時開設も検討する。

## ★オリエンタ・ルーモ支部

### ●山本 明子

今年は新しくエスペラントを始める人のために講習会を行った。

田中雅道講師の愛善講座とあわせて海外のエスペランティストとしてアレクサンドラ綿貫さんを迎えた。参加者は約30名、主に神奈川県の人たちが参加し、自己紹介の勉強を行った。

毎月、東京本部の月次祭の後で会合を行っている。また、中級者を中心に裕大福講師の来京の折りに前置詞の勉強を年に4～5回行っている。

また、神奈川主会で支部ができたので、合同で講座を行うことを検討している。

## ★名古屋支部

### ●瓜生 秀明

毎月、第2水曜日と第4水曜日の18時～20時に名古屋エスペラントセンターで会話と文法を中心に学習。参加者5名。

## ★松香支部

### ●山本 文子

毎月の月次祭前日である土曜日の夜に1時間、外部講師を招き、松香分苑神の家でエスペラント講座を開講している。

7月には夏期学級のプログラムの一つとして青少年対象にエスペラント勉強会を開催し、青年部長、副部長をはじめ、初めてエスペラントを学ぶ青少年、子供たちが受講した。

今年から新たに受講する人も増え、大人から幼児まで幅広く参加し、エスペラントを学んだ。来年もこの体制で続行予定です。

## ★神戸支部

### ●平岡 五城

2カ月に一度、本苑月次祭の後で参拝者にエスペラントミニ講座を行っている。

また、大阪本苑主催のエスペラント講習会に2名が、福島妙寿寺エスペラント講習会に3名が参加している。

## ★苫小牧支部

### ●柴田 智美

1月 北海道エスペラント連盟の新年会に2名が参加 苫小牧  
3月 青松会リーダー教本研修会で 少年エスペラント講座を開催し5名が受講。

7月 大本北海本苑夏期学級で少年エスペラント講座を開催し27名が受講した。

9月 大本の青松会Iサミットで少年エスペラント講座を開催し22名が受講した。

## ★小松支部

### ●金子 藤次

#### 1) 講習会

★ 4月16日(土)～17日(日) 碓大福EPA講師を迎えて、大本北陸本苑を会場に北陸本苑青松会が主催する「青年信徒一泊研修会・エスペラント講習会」を開講。青少年を含む北陸本苑信徒18人が受講した。16日夜は「ザメンホフとエスペラント」と題した講話を聴講。

17日は碓講師の中級クラスと、小松支部の金子暁美会員の初級クラスに分かれて集中学習。神聖苑内エクスクルソでは、満開のこのはな桜を鑑賞した。

★ 11月23日(水・祝) 碓大福EPA講師を迎えて、大本北陸本苑を会場に「エスペラント講習

会」を開講。俗講師の初・中級クラスと、小松支部の金子暁美会員の入門クラスに分かれて、北陸本苑信徒12人が集中学習。「勤労感謝の日」の講習会は今年で2年目。北陸本苑ではこの日はエスペラント学習の日として、定着することにした。

## 2) 出張講習

★ 小松市立荒屋小学校で、「町の先生」を迎えて行われている8つのクラブ活動の中に、昨年引き続き本年も「エスペラントクラブ」を開講、5月から12月までの計9回を、クラブ講師として小松支部の金子暁美会員が担当した。

4年生～6年生で同クラブ所属の6人(担当教諭1名)を対象に、エスペラントが世界中みんなの言葉であることを伝えながら、自己紹介やあいさつ、単語ゲームなどを指導した。

## ★北海支部

### ●谷口 岩雄

北海道の大本信徒の分所・支部・会合所を通して、エスペラント普及会北海支部発行のエスペラント学習プリント(A4版の表裏2ページ)を、全信徒宅に配布して国際的共通意識を高めるように努めている。

内容は、文法、日常会話の表現力、宗教的靈性を高めるために『道の栞』を参考にして学習を深めるよう配慮している。

## ★ラ・クルウボ紀の国支部

### ●中井 宏

本年は3回の勉強会を行った。来年は毎月、開催したいと思っている。

なお、12月の本苑月次祭後、合同ザメンホフ祭を開催。

## ★2012年のEPA合宿予定★

EPAでは、2012年の合宿を下記の通り予定しています。

- ・第22回国際エスペラント合宿(大本熊本本苑)  
2012年3月31日～4月1日(この日程に変更になりました)
- ・EPA 関東エスペラント合宿(大本東京本部)：  
5月18日～20日を予定しています。

EPA事務局

# ザメンホフ祭 2011 を開催

エスペラント普及会事務局員  
奥脇 俊臣

12月3日(土)午後1時から、「ザメンホフ祭 2011」が亀岡市天恩郷の大本会館3階の第4・第5会議室で行われ、約30人が参加した。

礼拝の後、田中雅道EPA理事長の挨拶。その後、「la Espero」を全員で合唱。続いて田中理事長がEPAの年間活動報告を行い、私が昨年10月に行われた日韓合同エスペラント大会について写真を交えて報告した。

次に天恩郷郷内講座の平岡康クラス4人がエスペラントクイズを出題。エスペラントの説明を聞き、どの動物なのかを答えた。

休憩後、本部職員の梶本佳織さんと職員の子供たちが「翼をください」をエスペラントで合唱した。また、梅松塾生1年生の柴田健君がエス語で自己紹介を、2年生の斉藤安隆君と時松治彦君が漫才3題：「茶柱」「天地のご恩」「Z祭」をエスペラントと日本語で披露した。

亀岡の高橋和子さんは日韓合同エス大会に参加した印象を語った。海外旅行が今回初めてのこと。大会中、大本・人類愛善会のブースで宣伝に努めたことなどにふれ、最後に都々逸を披露。

北陸の吉村真澄さんは「朗読から得たこと」を話し、北陸でのエスペラント普及活動につい

て紹介。次に亀岡の藤本夏子さんが絵本『じぶん』を朗読。Orienta Lumo支部の山本明子さんの指導で、エスペラントで「森のくまさん」を全員で歌った。

続いて、飛び入りで西永篤史さんがギターを持って18歳の時に作ったオリジナルソングなど3曲を披露した。

次に、恒例の『記憶便法エス和作歌辞典』の中からクイズの出題が田中理事長によって行われた。今年はFで始まる単語であった。日本語にはFの発音が無いため、なかなか当てることができなかった。

その後、2012年のエス行事「第7回圓佛教国際禅セミナー」「第97回世界エスペラント大会」「Bonvenon al Oomoto, 2012」の案内があり、「基本宣伝歌」を全員で合唱。田中EPA理事長の閉会挨拶、礼拝で閉会となった。



亀岡の大本会館で



## EPA 京都支部で第 4 回 一泊研修会

去る 11 月 26 日、27 日の 2 日間、京都本苑を会場に大本本部よりエスペラント普及会理事長の田中雅道先生をお招きし、第四回一泊エスペラント研修会を開催した。

受講者は初級者コース 11 名、中級者コース 5 名。初級者コースを田中雅道先生、中級者コースを平野清享先生にご指導頂いた。

11 月 26 日（土）、13 時開講式。ご神前礼拝、講師紹介の後、研修開始。初級者コースは EPA が発行された「INTENSIVA KUROSO DE ESPERANTO（エスペラント集約クルソ）」を元に初歩からご丁寧にご指導頂いた。またエスペラントの成り立ち、意義など解りやすく説明頂いた。初級者コースのテキストは初歩から中級までを網羅していたため、中級者コースは当初予定したテキストは宿題としてお持ち帰り頂き、同じテキストを使用した。エスペラントを音読し、和訳するという内容であったが知らない単語、忘れていた文法などがあり、よい勉強となった。

17 時、夕拝。17 時 30 分から海鮮鍋を頂いた。体が暖まり会話もはずみ、和やかな時間を過ごす事ができた。19 時から再び研修。20 時 15 分より有志による発表会。西七条支部の成田和子さんが「祇園小唄」を優雅に舞われた。この曲の作詩をした長田幹彦さんの誕生年が 1887 年で、奇しくもエスペラントがザメンホフ博士によって発表された年であることを説明された。その後、本邦初公開の DVD「日本の春 2009 年 大本」を拝見。ローマン・ドブジンスキーさんが世界エスペラント大会で発表し表彰されたものであり期待が膨らんだが、DVD の不調により途中までしか再生できず。正式リリース時までお楽しみをとっておくこととなった。ここで 1 日目のプログラムは終了。その後、宿泊者の有志で懇親会。夜更けまでエスペラント、大本、人生について熱く語り合った。

11 月 27 日（日）、九時から研修。初級者コースは 2 日目から参加された方がおられたため一日目と同じ内容を復習し理解を深めた。中級者コースはテキストの全過程を終了した。11 時 45 分、記念撮影。12 時 10 分より昼食。13 時 10 分からエスペラント普

及会認定級の試験。初級者コースは5級、4級に挑戦し、中級者コースは3級、2級、1級に挑戦した。試験後、感想文を書き、14時30分に閉講式。ご神前礼拝後、田中先生、平野先生からお言葉を頂戴した。継続して勉強するための方法や大本本部にらられる海外エスペ란ティス

トと積極的に交流していくことが必要であることなどをお話になり、2日間の研修会が終了した。

以下、参加者の感想は、「エスペラントを勉強するよいきっかけとなった」「単語を覚える必要性を感じた」「懇親会での人生の先輩の話しが勉強になった」

(松本泰昭 報)



研修会記念撮影

### EPA 認定試験合格者

平成 23 年 11 月 21 日付交付 (H23.11.14 梅松塾で実施)

1 級 齊藤 安隆 (梅松塾)

平成 23 年 12 月 1 日付交付  
(H23.11.27 京都本苑一泊エスペラント研修会で実施)

3 級 松本 晴子 (京都)	5 級 村上 ひろ子 (京都)
4 級 上野 信太郎 (京都)	5 級 小国 健一 (京都)
4 級 天野 照子 (京都)	5 級 竹本 紋代 (京都)
	5 級 志田 昌繁 (京都)



## 私の体験的エス語学習法論 (1)

田淵 八州雄

これから4回程、私が体験した学習法を紹介します。たとえば富士山に登るとすれば、いろいろなルートがあることでしょう。エスペラントを学習するにしても様々なルート＝学習法があり、読者の皆さんは自分にあった学習法で富士山の頂上（エス語の習得）を目指してください。従って私の例はその一例にしすぎません。あくまでも参考例としてお考えください。

### ◆直接教授法

私が大学（神戸市外国語大学）に入ったときには学内にエスペラントクラブがあり先輩から、直接教授法で教わりました。入門段階で、この教え方を学んだのは後々になってとてもよかったと思います。pensi en Esperanto の基礎ができたからです。

例えば、最初に習った単語は libro, tablo, kraĵono, mano, nigratabulo など身の回りにあるものでした。その利点は例えばノートを見て libro と言い、私も libro と反応して、日本語の「ノート」を介在させずに、その語を認識し、脳細胞の中にイメージが定着して覚えるわけです。

次に en や sur を習いました。

“La libro estas sur la tablo.” “La libro estas sur la muro.”

“La kraĵono estas en mia mano.” などの文を動作をつけて教えてもらいました。sur や en が入っている文を習う者も繰り返し反復して言っているうちに前置詞 en, sur の意味が自然に頭の中に入ってきます。sur は「接触している」というイメージであり、en は「あるものの範囲の中に」というイメージが徐々に定着してきます。

(注)

× libro ⇒ 本 本は机の上にある ⇒ Libro estas sur la tablo.

○ libro ⇒ La libro estas sur la tablo.



⇒



⇒

La libro estas sur la tablo.

×の場合のように、いちいち日本語に置きかえていると⇒ 時間がかかり過ぎます

○のような脳での思考経路を作る ⇒ 即座に、すばやく反応できる

この方法が徹底すると外国の amiko と話す場合もエス語のチャンネルで即座に考えて会話を楽しむことができます。

亀岡での越年研修会では、アティリオ・ロハス先生がそのチェ・メトードというエスペラント直接教授法で教えられます。

く (注)チェ・メトード：1920年にアンドレ・チェ (Andreo Cseh 1895-1979) によって始められた。1910年にエスペ란ティストになったハンガリー人でルーマニア生まれ、カトリック神父。UEA の名誉会員。彼の教授法はとても効果的で、世界的に人気がある。チェ・メトードの原則は①教科書を使わない。②エスペラント以外の言葉を使わずに今まで出てきた単語で新しいことばを導入する。③生徒は声をそろえて答える。④ユーモアたっぷりに行う。⑤生徒自身が言語の基礎を発見し、文法の体系を構築するように仕向ける。『エスペラント国の旅』より引用 >

今回習う機会がなくても彼から習うチャンスを見つけてチャレンジしてください。

☆TPR追加

## (2) Instruado estas lernado! (教えることは学ぶこと)

この方法でエス語を学んで大学2年生の時に兵庫県西宮市の甲東公民館で Rondo Harmonia (=国際語教育協議会) 主催の入門市民講習会の講師を務めることになりました。

経験の少ないものが講師になって教えるわけですから、たくさん勉強しなければなりません。人に教える立場に自分を置くことが一つの学習法です。(逆説的かも知れませんが「教えることが学ぶこと」につながります)

(注: Rondo Harmonia: 国際語教育協議会【略称=RH】1960年代に創設されたエス語普及・教育・研究の団体で1970年代後半には全国の幅広い大学にこの団体の支部が存在していた。)





少し脱線しますが...

☆何かを伝えたいという思いやエスペラントに対する憧れの気持ち

思い ⇒ 学習意欲 ⇒ 学習 ⇒ エス語を使う (話す)

私がエス語を学びたいと思ったきっかけは、出口京太郎先生著の『エスペラント国周遊記』(1965年朝日新聞社より出版)です。以下は裏表紙の解説記事からである。

『エスペラント国は地球上のどこにも存在しない。しかしあらゆるところに存在する』という言葉がある。そのエスペラント語をひっそり日本を代表して堂々と世界大会にのぞみ、弁論大会で二位を獲得すると共に、日本の“芸術”を勇敢にやってのけ若人らしい自信をたかめ、ヨーロッパ各地をとび歩き、さらに米大陸をのし歩いた。エスペラント語だけで押し通したが不自由を感じなかったどころか、世界のエスペランチストとより以上に強力に結ばれた。青春の匂いあふれる奇抜、新鮮なエピソードが全編にわたり、率直に放つ文明批評の行間を興味深く縫うている]

この本に遭遇してから、私はエスペラントと大本の歴史に興味を抱き始めました。何時の日か私も著者に習ってエス語で世界周遊をしたい、日本の伝統文化を紹介したいと思ったのです。このようにエス語学習法の前にエス語を使って何かをしたいという憧れ、動機づけが存在すると思います。

現在はエス語を学べる環境はとても恵まれています。インターネット上でも学ぶことができます。また通信添削講座でも学べます。要するに私が言いたいことは、何かを伝えたい、エス語を使って何かをしたいとい気持ちが高めることが肝心なことだと思います。

・～・～・～・～・～ エスペラント表現のメモ ～・～・～・～・～

- } 「その本は彼のものです」というとき
- ・ (1) Tiu libro estas lia.
- ・ (2) Tiu estas libro de li.
- ・ (3) Tiu libro apartenas al li.
- ・ (4) Tiu ĉi libro estas ĉia, kaj tiu estas la lia.



## 新入門講座 (9)

EPA 事務局員 奥脇 俊臣

### Kie (どこで? どこに?) と imperativo (命令法の u)

あけましておめでとうございます。フェリーチャン・ノヴァーロン!

今回は「あなたはどこに住んでいますか?」という尋ね方について学習します。Kie という疑問詞を使って疑問文を作ります。また、「住む」という動詞は loĝi といいますから、

Kie vi loĝas?

となります。「私は東京に住んでいます」と言う場合は

Mi loĝas en Tokio.

となります。「私は京都に住んでいます」と答えるには

Mi loĝas en Kioto.

となります。ここで、なぜ「あなたはどこに住んでいますか?」と聞く場合には en という単語が出て来ないのに、返答する場合には必要なのかという疑問が出て来るかもしれません。en は「〜で」「〜に」という意味で、場所などを示す前置詞です。

そして kie という単語は「どこで」「どこに」という意味ですから、すでに en の意味も kie は含んでいるのです。ですから、「どこに住んでいますか?」と尋ねる場合には en は必要ないのです。

それから、「東京」「京都」がそれぞれ Tokio, Kioto (トキーオ、キオートと発音します) となっています。これは固有名詞をエスペラント化しているのです。有名な都市名は、このようにエスペラント化して表現されます。例えばニューヨークは Novjorko という具合です。また、名詞ですから、語尾が o で終わっています。



つぎは命令形についてです。

動詞の語尾が*i*の時は原形。つまり時制に左右されない時の形で、辞書に載っている形だと、すでに学習しました。

動詞の語尾が*as*になっている時は現在形、あるいは現在進行形です。動詞 *manĝi* は「食べる」という意味です。語尾の*i*を取って、代わりに*as*をつけて *manĝas* とすると現在形あるいは現在進行形の「食べる」あるいは「食べている」になります。

過去形、未来形にするには、それぞれに対応する語尾 *is*, *os* があります。動詞 *manĝi* を *manĝis*, *manĝos* とすれば、それぞれ過去、未来の意味になります。

そして命令形にしたい場合は、語尾を *u* にします。

## Manĝu!

とすると「食べなさい!」という意味になります。

「勉強しなさい!」と言いたい場合は、「勉強する」という意味の動詞の原形 *lerni* の語尾の*i*を取って、代わりに*u*をつけ

## Lernu!

とすると「勉強しなさい!」とか「勉強しろ!」という意味になります。「エスペラントを勉強しなさい!」のように目的語が存在している場合でも、簡単です。

## Lernu Esperanton!

とすれば「エスペラントを勉強しなさい!」という意味になります。

それでは年の初めにあたりまして

## Lernu Esperanton!

今年もよろしくお願ひいたします。

## Marmara kuko kun pulvora verda teo

抹茶のマーブルケーキの作り方

### 【Materialoj】 (modela kvanto)

- \* butero 100 gramoj
- \* sukero 90 gramoj
- \* ovo 2 = 100 gramoj  
(meza grandeco  
en ĉambra varmeco;  
en 30 gradoj vintre)
- \* brando 5 gramoj
- \* tritika faruno por kuko 120 gramoj
- \* bakpulvoro 2 gramoj
- \* pulvora verda teo (filtrita) 3 gramoj
- \* lakto 30 gramoj

### 【材料】 (基本の配合)

- \* バター 100g
- \* 砂糖 90 g
- \* 卵 Mサイズ 2個  
(常温のもの 100g)
- \* ブランデー 5 g
- \* 薄力粉 120 g
- \* ベーキングパウダー 2g
- \* 抹茶 (こしておく) 3 g
- \* 牛乳 30cc

### 【Kuirmaniero】

1. Buteron, kiu estis varmigita en ĉambra varmeco, knedi krema.
2. Aldoni sukeron al krema butero, kaj miksi ilin, ĝis ili fariĝi blanka kaj kotona. Al tio aldoni ovon en varmeco ĉambra iom post iom per kelkaj fojoj, kaj sufiĉe miksi tion je ĉiu aldono per manmiksilo.
3. Aldoni ĉirkaŭ triono de filtrita faruno tritika por kuko, kaj de bakpulvoro. Kaj miksi kelkfoje ilin, poste al tio alĉerpi brandon.
4. Aldoni ceterajn tritikan farunon kaj bakpulvoron, kaj krake miksi

### 【作り方】

1. 常温に戻したバターをクリーム状に練る。
2. 砂糖を加え、ふんわり白っぽくなるまでよく混ぜる。  
常温の全卵を少量ずつ数回にわけて加え、その都度ハンドミキサーでしっかりと混ぜます。
3. ふるっておいた薄力粉・ベーキングパウダーを 1/3 位入れ、軽く混ぜて、ブランデーを入れる。
4. 粉をいれ、ゴムベラでさっくりと混ぜ合わせ、粉っぽさが少

ilin per gumtruleto. Aldoni lakton al ili faruneca.

5. Enmeti en alian bovlon iom da miksita faruno, kaj al tio aldoni pulvoran verdan teon, kaj sufiĉe miksi ilin. Aldoni al tio trionon de la miksita faruno, kaj miksi ilin.

6. Unuigi farunon el 2 bovloj kaj miksi tion 3 foje. Estu atenta, ke troa miksado ne donas al la kuko marmoran desegnon.

7. Enmeti la elmiksitan farunon en formujon buterumitan kaj pulvorumitan de tritika faruno por pano. Kaj elaerumigas tion, poste baki tion en bakujo je 170 gradoj ĉirkaŭ dum 40 minutoj. Kiam sur pikinta bambua pikilo troviĝas nenion, tio estas elbakita.

Se vi preferas la malseketan, gustumu tion post 2 aŭ 3 tagoj. (Volvite de volvfilmilo oni povas konservi tion en fridujo ĉirkaŭ 2 semajnojn.)

Laŭ via plaĉo aldonu sukeritajn fabojn al la miksita faruno.

Tiuokaze antaŭe surmeti bakpulvoron tiom, kiom da sukeritaj faboj, kaj la faboj ne dronas en farunon.

し残るくらいで、牛乳を加える。

5. 別のボウルに生地を少量入れ、抹茶を加えてよく混ぜ合わせる。さらに生地 of 1/3 を入れて混ぜ合わせる。

6. 2つの生地を1つのボウルに入れて、3回ほど混ぜる。混ぜすぎるとマーブルではなくなるので注意。

7. バターを薄く塗り、強力粉をはいた型に生地を流しこみ空気抜きをする。170°Cのオーブンで約40分焼く。

竹串を刺して何もついてこなければ焼き上がり。

しっとりした生地がお好みの方は当日より、2~3日後のほうがおいしい。

(ラップに包み、冷凍庫で保存すると2週間くらいは日もちします)

お好みで生地に甘納豆をくわえても。分量の粉をまぶしておくとお納豆が沈みません。

(Toku)

## どこからどこへ繋がるか？

つぎの文は、ザメンホフが第一回世界エスペラント大会で行った演説の一部分です。これで一つの文です。文中に ke reciproka...; ke por ĉi tio...; ke unu popolo...; ke la muroj...; ke reciproka...; sed apero...; kiu pro tre bedaŭrindaj...; sed kiu pli aŭ malpli...; kaj kiu fine...; kiu nun...; sed, unu fojon...; ke niaj nepoj...; ke estis iam...; ke la homoj... と、ke, kiu や sed がたくさん出てきています。どこからどこへ繋がっているのを見ましょう。

Ni montros al la mondo, ke reciproka kompreniĝado inter personoj de malsamaj nacioj estas tute bone atingebla, ke por ĉi tio tute ne estas necese, ke unu popolo humiligu aŭ englutu alian, ke la muroj inter la popoloj tute ne estas io necesega kaj eterna, ke reciproka kompreniĝado inter kreitaĵoj de tiu sama speco estas ne ia fantazia revo, sed apero tute natura, kiu pro tre bedaŭrindaj kaj hontindaj cirkonstancoj estis nur tre longe prokrastita, sed kiu pli aŭ malpli frue nepre devis veni kaj kiu fine nun venis, kiu nun elpaŝas ankoraŭ tre malkuraĝe, sed, unu fojon ekirinte, jam ne haltos kaj baldaŭ tiel potencege ekregos en la mondo, ke niaj nepoj eĉ ne volos kredi, ke estis iam alie, ke la homoj, la reĝoj de la mondo, longan tempon ne komprenis unu la alian!

最初の montros は、montri al ~ ---n で、「~に --- を示す」という意味になります。この ---n にあたる部分が、ke reciproka...; ke por ĉi tio...; ke la muroj...; ke reciproka... です。

文中で3つ目の ke unu popolo... は、その前の ke por ĉi tio tute ne estas necese からつづき、ne estas necese, ke ~で「~が必要でない」という意味です。ですから ke unu popolo... は、montri al ~ ---n の ---n にはあたらず、ke por ĉi tio tute ne estas



necese, ke unu popolo humiligu aŭ englutu alian の間だけのことになります。

文中で5つ目の ke reciproka... から文の最後の unu la alian! までは、長いですが、montri al ~ ---n の ---n にあたります。ですから、この ke reciproka... から以降は、この部分の中での話になります。

そこで sed apero は、その前の ne ia fantazia revo, sed apero tute natura (revo ではなく apero tute natura である) という意味です。

つぎの kiu pro...; sed kiu...; kaj kiu fine...; kiu nun elpaŝas... の kiu は、いずれも文中5つ目の ke の後の reciproka komprenigado を指しています。

そして、kiu nun elpaŝas... から文末までは、(ke reciproka... から以降で、montri al ~ ---n の ---n にあたる部分のうちで、さらに) この kiu を主語とする一つの文になります。

nun elpaŝas ankoraŭ tre malkuraĝe, sed, unu fojon ekirinte, jam ne haltos kaj baldaŭ tiel potencege ekregos のところは、より単純にすると、nun elpaŝas sed jam ne haltos kaj baldaŭ ekregos となります。

さらに、ekirinte, jam ne haltos は、いわゆる分詞構文で、~ inte, ...os となっていて、「~してしまつて、~するであろう」となります。

tiel potencege ekregos en la mondo, ke niaj nepoj の部分をもう少し単純にすると、tiel potencege ekregos.....,ke..... となります。

この tiel ekregos, ke ~の中に volos kredi, ke ~があり、さらに volos kredi, ke ~の中に estis iam alie, ke la homoj があります。

la homoj, la reĝoj de la mondo, は、la homoj と la reĝoj de la mondo が同格で、la homoj すなわち la reĝoj de la mondo という意味です。ですから la homoj longan tempon ne komprenis unu la alian とつづきます。

上記をつぎに図解します。

(A)

Ni montras al la mondo, ke reciproka...

,ke por ĉi tio tute ne estas necese, ke unu popolo...

,ke la muroj...

,ke reciproka ...fantazia revo, sed apero...

, kiu pro...

, sed kiu...

kaj kiu fine...

, kiu nun elpaŝas sed ne haltos kaj baldaŭ ekregos

(ekirinte, jam ne haltos)

(tiel potencege ekregos ..., ke niaj nepoj)

(B)

tiel potencege ekregos ..., ke niaj nepoj...

...volos kredi, ke...

...estis iam alie, ke la homoj...

(C)

la homoj, (la reĝoj de la mondo), longan tempon ne komprenis unu la alian!

つぎは、これの日本語訳(『国際共通語の思想』水野義明著)です。

「私たちは、世界中に示してやりましょう。一民族が異なる人びとの間でも相互理解はまったく可能です。相互理解のために、ある民族が他の民族をはずかしめ併合してしまう必要はありません。諸民族を隔てる障壁は不可避でも永続するものではなく、まったく自然な現象です。悲しく恥ずべき事情のためにこの自然現象の実現が遅れていますが、遅かれ早かれ実現するはずで、それがいまや実現したのです。最初の歩みはゆっくりですが、いったん動きだしたら止めどもなく、まもなく世界の強大な勢力となるでしょう。そのあかつきには、そういう現象がこれまで実現せず、地上の王者たる人間が互いに理解できなかった時代があったなどとは、私たちの子孫にはとうてい信じられないことでしょう。」

(H·H)



Unu saĝo estas bona, du estas pli bonaj.

一人賢者がいるのは良い、二人いればなお良い。

日本のことわざは「三人よれば文殊の知恵」です。

凡人でも三人集まって相談すれば、一人ではとうてい思いつかない良い知恵が出るということ。

文殊菩薩（もんじゅぼさつ）は仏として悟りを開くために修行している人の中で一番最高だということです。お釈迦様の教えを良く理解し、完全な智慧をそなえていた修行者として、大乘仏教のお経によく登場します。このように文殊菩薩は他の誰よりもすぐれていたため、「文殊」といえば、知恵がすぐれた者となり、「文殊の知恵」という言葉が生まれたようです。

出口日出麿尊師さまは『信仰叢話』において、「一人ひとりがいくらえらくても、また判っておっても、それじゃ力がない。ところが、ことわざにも三人よれば文殊の知恵といいますが、そう言うような人が五人でも十人でも寄って靄然（あいぜん）として一つの集団をつくり、仲良くしているときには、その一人ひとりの力を数学的に加えた和よりも、五人なら五人によった集団の力の方が大きい。」と示されています。

もう一つことわざがあります。

Pli da okuloj, pli da certeco.

目がもっとあれば、より確かだ。

一人が見るだけでなく、二人、三人と多くの人が見る方が確かであるということ。

本誌の校正においても同じことが言えます。

一人で見ていると、いくつも見落としがありますが、何人かが目を通せば、漢字変換のミスや、ミススペルなどが見つかります。

それでもまだいくつかのミスを読者の皆さまからご指摘いただいています。

※携帯からアクセスしてこの講座を見ることができます  
<http://www.oomoto.jp/i/esperanto/espo/.html>



添削模範解答

講師 裕 大福

2011 年 11 月号の問題

〈初級〉

A. 次の文をエスペラントにきなさい。

1. 市長は彼らを夕食に招待した。
2. 彼は裁判に召還された。
3. 一人の女が王様に訴え出た。

B. 次の文を日本語に訳きなさい。

1. "Nu, pro la ĉevalo oni bone pagis al mi!", li diris al si mem.
2. Kiam li alvenis hejmen kaj ŝutkunigis en sia loĝejo, sur la mezo de la planko, la tutan monon en formo de granda amasaĵo.
3. Kiel tio ĉagrenos la grandan Nikon, kiam li ekscios, kiel riĉa mi fariĝis per mia sola ĉevalo.

〈中級〉

A. 次の文を日本語に訳きなさい。

Li sendis knabon al la granda Niko, por peti de li buŝmezurilon.

"Por kio li tion bezonas!", pensis la granda Niko; kaj li ŝmiris la fundon de la mezurilo per gudro, por ke el tio, kio estos mezurata, io restu algluita. Kaj tiel efektive okazis; kiam li ricevis la mezurilon returne, sur ĝia fundo troviĝis algluite tri grandaj novaj arĝentaj moneroj.

"Kio tio estas?", diris la granda Niko, kaj li tuj kuris al la malgranda. "Kie vi ricevis la tutan monon?"

B. 次の文をエスペラントにきなさい。

「君、ローエッグ（生卵）食べるの？ アメリカじゃ絶対に、食べないよ。生の卵食べるのは鳥か蛇だけだよ。あれを食べるなんて、人間としての文化度が非常に低いです。君は野蛮人です。今、君とは絶交してもいい気持ちになっています」といった。僕は返す言葉もなく彼の家を出た。

（『風の食いもの』池部良著、文春文庫、2006）から

## 2011年11月号の解答例

(初級) A.

1. La urbestro invitis ilin al la vespermanĝo.
2. Oni vokis lin al la juĝo.
3. Unu virino apelaciis al la reĝo.

B.

1. 「まったく、あの馬のためによく払ってくれたぜ」と彼は独り言を言いました。
2. 彼が家に帰り着くと、家の床の中央に有り金全部を放り出して一緒にし、大きな山にしました。
3. 大きなニコが、私がたった一匹の馬でこんなに金持ちになったのを知ったら、どんなにおもしろくないだろうな。

(中級) A.

彼は大きなニコのところへ、ブッセル升を借りるために少年を遣いにやりました。

「彼はこれを何のために必要なのだ」と大きなニコは考えました。そして、彼はその升の底にタールを塗りました。それでもって、何かくっついたもので、何が量られたか知ろうというのです。そして実際に、何かくっついていました。彼が升を返してもらったとき、その底には3枚の新しい銀貨がくっついていました。

「これは何としたことだ。彼は有り金をどこで手に入れたのだろう」と大きなニコは言いました。

B.

“Ĉu vi manĝas krudan ovon? En Usono oni absolute ne manĝas tion. Nur korvo kaj serpento manĝas tion. Tiu, kiu manĝas tion, apartenas al la homoj de malalta nivelo en kulturo. Vi estas barbaro. Nun mi deziras rompi amikecon kun vi.” Li diris. Mi povis diri nenian rediron, kaj eliris el lia domo.  
(el “Manĝaĵo de ventumulo” de IKEBE Rjou, Bunŝunbunko, 2006)

《解説》

(初級 A-1) La urbestro invitis ilin al la vespermanĝo. の invitis は、inviti ~n al... で、「招待する相手の人」に -n をつけ、「招待する催し」の前に前置詞 al を置きます。

(初級 A-2) Oni vokis lin al la juĝo. も同様で、「呼ぶ相手の人」に -n をつけ、「呼ぶ催し」の前に前置詞 al を置きます。

(初級 B-1) li diris al si mem. は「彼は自分自身に言う」で、すなわち、「彼は独り言を言う」です。

## 添削問題

2012年1月号の問題

(初級)

- A. 次の文をエスペラントにしなさい。
1. 神さまに祈りを捧げよう。
  2. 彼女はピアノを弾きたい気持ちに抗することは出来なかった。
  3. 彼は故郷を恋しがっている。

B. 次の文を日本語に訳しなさい。

1. "Feloj, feloj!", ili moke imitkriis.
2. "For el la urbo!", ili kriis.
3. Kaj la granda Niko devis kuri per ĉiuj siaj fortoj.

(中級)

A. 次の文を日本語に訳しなさい。

La 36-a sesio de la Ĝenerala Konferenco de Unesko kunvenis en Parizo de la 25-a de oktobro ĝis la 10-a de novembro. La ekstera mondo plej multe atentis la akcepton de Palestino kiel membro de Unesko. Rezulte Usono, la ĉefa financanto, frostigis sian kontribuon, kio devigas Uneskon al drasta ŝparo. Pro manko de mono stumblis ekzemple la iniciato pri Internacia Jardeko de Interproksimigo de Kulturoj.

(el "Esperanto" decembra numero, 2011, eldonita de UEA)

B. 次の文をエスペラントに訳しなさい。

やがて現物(イヌクシュ)が着いた。保税倉庫で荷を解いてみて、立ち会いの連中がびっくりした。なんの変哲もない石ころがゴロゴロ。展示の係もあきれて、「道路工場の現場みたいですね」。私たちはある日、指示の印に従って石を積み上げてみた。全部組み立てておわると、こつ然と、人間像が出現したのである。いかにも確固としたたずまいだ。

(『世界美術への道』岡本太郎著、筑摩書房、2011)

\*イヌクシュ(Inukushu) = カナダの極北に住む先住民族イヌイトが石や岩でつくる人型の石像のこと。人間が両腕を横に伸ばしたような形をしている。石や岩を積み重ねただけで形成されており、接着剤などは使われていない。

◎宛先 〒621-8686 京都府亀岡市天恩郷  
エスペラント普及会 誌上講座 通信添削係  
(返信用封筒に切手を貼ってお申込み下さい)





## モンゴルのザメンホフ祭に 参加して

去る12月17日(土)午後2時半、OMC(大本モンゴル本部・アズモンセンター601号室)を会場に、“ザメンホフ祭2011”が開催されました。参加者はMES(モンゴルエスペラント会)会員ら12人で、OMC(大本モンゴル本部)信徒7人も含まれていました。

当日の日中の気温は零下18度で、平年より寒かったようです。しかし、寒冷地用防寒コートに身を包んだ会員らは、元気な笑顔で次々とOMCに集まってきました。

ところで、どこの国にも大なり小なり“〇〇〇タイム”と称される、伝統的時間感覚?があるようです。モンゴルでも、いわゆるモンゴルタイムが大いに幅を利かせています。

例えば、当日の行事も午後1時開始と案内されていましたが、全員がそろったのは結局2時半でした。ではその間、早目?に(定時まで)来た人たちはどうしているのか。ご安心ください。これといった険しい表情をすることもなく、近くの人とおしゃべりを楽しんでいます。

3年前のモンゴル駐在まで、私は好むと好まざるとに関わらず、時間に厳格な日本の生活習慣に浸っていました。ですから、当初はこのモンゴルタイムにイライラさせられっぱなしでした。

しかし、慣れというものには恐ろしいもので、モンゴルでの滞在期間が長くなればなるほど、イライラ感がだんだんと薄れてきて、今では、すでに“モンゴル化されてしまった状態”と言えるかもしれません。

さて、本題のザメンホフ祭なのですが、参加者の女子大生(大本信徒)の一人が常とは異なり、どこか悲しそうな表情で部屋の隅に座っているのが目に入りました。

尋ねると、数日前、父親が遠方の田舎町からウランバートル市内の病院に入院し、その容態が大変に心配だと、両目に大粒の涙を浮かべながら話してくれました。

そこで私は、急遽、参加者全員に呼びかけ、彼女のお父さんの「病氣平癒祈願」を行うことになりました。おかげさまで、同祈願が終了するころになると、女子大生の表情は以前のように明るくなり、一同はほっと胸をなでおろすことができました。

定刻より1時間半遅れて始まったザメンホフ祭ですが、最初に私が「大本・モンゴル・エスペラント」の講題の下、1時間のエスペラント講話を担当。海外のエスペラントティストということで、エスペラント行事の度に貴重な時間をいただいていたことを感謝しています。

その後、チメデユスツレン・エンへMEC会長(大本信徒)が、去る10月に韓国で開催された、日韓合同エスペラント大会やその後の中国各地でのエスペラント交流の様子を映像で紹介し、参加者の関心を集めていました。

次いで、トヤさん(音楽院生・大本信徒)が電子オルガンを伴奏しながら、全員でエスペラント歌を数曲合唱。プログラムの最後に、来年度のMES活動計画について討議され、およその内容が決まったところで、会場を移して賑やかな懇親会が行われました。

## NOVA VOJO 購読会員

2011年11月分(12月12日まで)

継続

*Multan dankon kaj bonan kunlaboron!*

【特別賛助会員】

東京：山本明子

【普通会员】

兵庫：久保田俱視 / 東京：谷本嘉代子 /  
 和歌山：淡路和子 / 中尾佳世子 / 広島：  
 藤本幸恵 / 花田伊津子 / 神尾さだえ / 神  
 奈川：山本美郷 / 東京：山本喜多男 / 大  
 阪：浜口真守 / 田ヶ原清 / 徳島：平岡宏  
 海 / 大分：宮崎正 / 愛媛：升田順子

## 訂正

本誌12月号9頁右段の本文9行目の manajoj は maĝajoj に、同15行目の altnivelo は altnivela に、同18行目の gravecon preĝi は gravecon de preĝado に、同22行目の La は la に、同27行目の Vespero は vespero に訂正します。

同号10頁左段3行目の Ferma soleno は Ferma Soleno に、同下から19行目の「して 있습니다」は「しています」に、17頁左段下から2行目の Teni ĝin sia brako は Teni ĝin per la brako に、19頁下から6行目の peskaŭ は preskau に、

27頁下から4行目の「ランビック」は「ランビック」に、それぞれ訂正いたします。

また、同号10頁右段5行目の Saluton のつぎに「,」を入れます。

## 編集後記

今年は辰年ですが、各月にも十二支が配されていた。旧暦では辰は三月にあたる。しかし、中国の周の時代(紀元前1046—紀元前256)には、子が1月、丑が2月、寅が3月、卯が4月、辰が5月…であった。冬至を含む月を正月としていた。漢の時代(紀元前206年—紀元後220年)以降に辰は三月になった。

周時代より以前にも、変遷があったという。殷の時代(紀元前17世紀—紀元前1046)には丑の月が正月であり、夏の時代(紀元前2070年—紀元前1600年)には、寅の月が正月(立春正月)であったという。中国では、各月に当てた子、丑、寅、…は変わらず、正月のほうが移動した。

古代ローマでも、初め januaro は11月で、februaro が12月であった。marto が一月であったのが、2カ月繰り上げて januaro を1月に、februaro を2月に、marto が3月…としたのである。

編集人  
 発行人  
 発行人

碓 大福  
 田中雅道  
 エスペラント普及会 EPA : Esperanto-Populariga Asocio  
 〒621-8686 京都府亀岡市天恩郷  
 TEL:0771-56-9074 FAX:0771-25-0061  
 郵便振替 : 01010-0-8669  
 メールアドレス : oficejo@epa.jp  
 Nova Vojo web : www.epa.jp/NV/Nova Vojo.htm

印刷所

(株) 天声社

〒621-0815 京都府亀岡市古世町北古世 82-3

定価 : 300円 (年間 3,000円) 送料別

- 落丁本、乱丁本はお取り換え致します。
- 本誌掲載記事の無断転載を禁じます。



# Fotoj de Zamenhof Festivalo, 2011



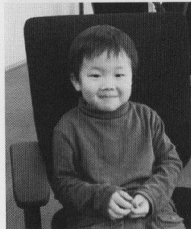
Ĉu vi trovas la vorton?



クイズを出題する平岡クラス



田中理事長の挨拶



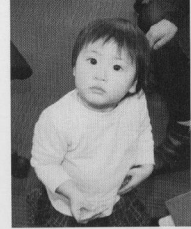
Mi salutas al vi ĉiuj.



藤本夏子さんの  
朗読



Orienta Lumo の  
山本明子さん



Ĉu vi parolas  
esperanton?



西永篤史氏のギター演奏



クイズ出題



吉村真澄さんの  
朗読



日韓合同大会の感想  
を話す高橋和子さん



Mi estas japanio.



斉藤安隆君と時松治彦君の漫才



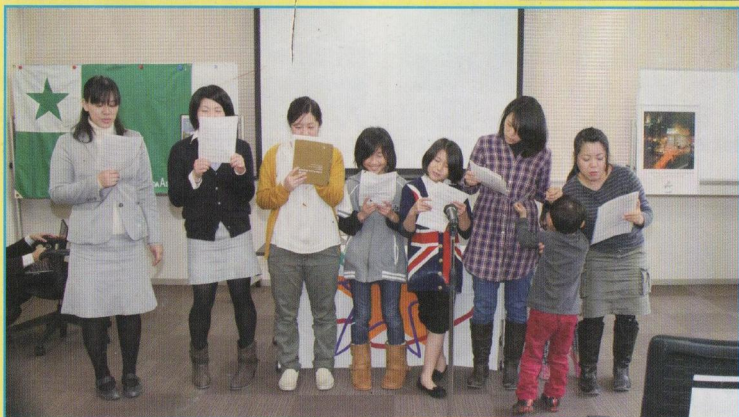
自己紹介する柴田健君

# Esperanto-Monumento restariĝis en Kameoka

La Esperanto-Monumento, sur kiu estas skribita "Unu Dio, Unu Mondo, Unu Interlingvo", translokiĝis al la nova loko. Ĝi estis restarigita je la 10a horo en la 31a tago de oktobro, 2011.



## Zamenhofa Festo



Korusas la kanton "Donu al mi flugilojn!"

HP : <http://www.epa.jp>

E-mail : [officejo@epa.jp](mailto:officejo@epa.jp)